



今月の国際テーマ : **Support YMCA!**

今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



**第26回 東日本区大会**  
6月3・4日 @ 甲府



左上) 恒例のパナーセレモニー (関東東部)  
 右上) ユースアワーは山梨 YMCA リーダー、YVLF 参加者、アジア賞受賞留学生と。  
 直上) 100 周年記念歌 (英語) 発表。  
 中2枚) はるか熊本のメンや都内のメンと久しぶりに対面交流を楽しむ。  
 左中) 来年の区大会は十勝で、とアピール。  
 中下) 山梨 YMCA 理事長の野々垣健五メンと。(上松、衣笠、浅羽)  
 左下) 浅羽は4日午後山梨 YMCA 新館を見学。横浜 YMCA 佐竹総主事一行、佐藤茂美メン (東京) と一緒に野々垣理事長から新館設立までの戦略と苦労話を拝聴。(中田総主事、福田主事も同席)



### 6月「ドレミファ」例会

日時 : 6月26日 (月) 14:00~16:30

会場 : 新都心駅界隈 (未定)

協議 :

- \* 5月例会の協議継続と年度の振り返り。浅羽会長の3年目の課題。
- \* 6月の歌「浜辺の歌」黙歌 (ハミング?)

### <6月の聖句>

「目の見えない人を導いて知らない道を行かせ、通ったことのない道を歩かせる。行く手の闇を光に変え、曲がった道をまっすぐにする。わたしはこれらのことを成就させ 見捨てることはない。」

(イザヤ書 42 章 16 節)



# この一年の活動を振り返る

## YMCA のサポーター組織としての歩みを

上松寛茂



6月号ブリテンに2022-2023の埼玉クラブの総括を求められた。5年間務めた同クラブ会長を退任、浅羽俊一郎メンの入会・新会長就任により埼玉ワイズは激変した。もちろんいい意味で。

チャーターメンバーだった小峰理孝メンの介護施設のご入居、小林道明メンの体調面の都合によるお二人の退会はあまりにも衝撃的であり、激変の最たるものだった。例会の会場は埼玉県庁に隣接した小峰ビルから浅羽メンの両親宅だった浦和区木崎にある「き咲きてらす」に、開催時間も18時開始が14時に変更。一度退会された伊藤澄夫メンの復帰は大きな喜びとなった。現正会員は担当主事を含め7人。平均年齢は70代後半。女性会員ゼロ。最近は会員外からの出席者も目立ち始め、大いに活気を取り戻した半面、かつてのようなアットホームな雰囲気は微妙に変わってきたように思う。

定例会の開催時間を昼間に変更したことで勤務の都合で出席が困難となった会員に配慮したイスラエルのヨルダン川を扱った「夜談会」を、さいたま新都心駅近く中華料理店で月に1回、随時、18時から開催するようになり、こちらは外部のワイズメンたちにも参加を呼び掛けた賑やかな懇談形式の会合が継続している。

埼玉クラブの屋台骨となっていた「心のふるさと歌声集会」や「わいわいパソコンタイム」はコロナ禍の影響で中断したまま。奏楽者も召天され、コロナ禍の行方も見通せず、復活の兆しはない。浅羽会長の提案で、「ジェンダー」について考えようと、「ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた」—あなたがあなたらしくいられるための29問—(佐藤文香著・明石書店)をテキストに学びをスタートしたところだ。もう一つ、立教大学の学Yグループとの交流について学生側の都合もあるし、どう対応したらいいかの課題もある。ユースのいないYMCAやワイズメンズクラブは何なのという素朴な疑問に対応策を共に考えていこう。

断捨離が求められる残り少ない人生の終末期を単なる社交クラブでは過ごしたくない。ミッション(課題)を持ち、地域に必要とされる組織でありたい。

そしてまた、ワイズメンズクラブはあくまでYMCAのサポーター組織。YMCAになくてはならない存在でいたいと切に願う。❖

## 仲間と向き合い、可能性を信じて

浅羽俊一郎



この6月で埼玉クラブ入会3年、クラブ会長2期を務めたことになる。私たちの社会がウィズ・コロナ化する中で活動だった。今期小峰理孝先輩が勇退され、伊藤澄夫メンが復帰。悲喜こもごものスタートとなった。

さてこの一年の会長主題は「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」。地元「ワイズ」を知ってもらおうと、広報の一環として地域活動「き咲きてらす」を活用し、歌声サロンにはメンバーが参加してくれた。12月のクリスマス祝会は近所や他クラブからの参加もあり、盛大だった。活動拠点浦和YMCAがコロナのため、使えなかったのが残念だった。また例会を平日午後にしたため、日中仕事のあるメンの参加が難しかった。

地域に知ってもらおうとブリテンにも一工夫。現に多くの民間団体が手製の広報紙をうまく使っている。先輩諸氏の助言を入れて、写真を増やし文字を減ら、「です・ます」をやめ、表紙を見映え良くした。11月号から開始。上松メンが私の執拗な原稿催促に応じて故関田寛雄牧師のことなど一連のエッセーを投稿してくださったことに感謝。

そして後期からは「ジェンダー」を中期的テーマに取り上げるよう提案し、卓話と話し合いをもった。なぜ日本社会は未だにジェンダーやLGBTQに対して後ろ向きなのか知りたかった。ゆくゆくはユースともこのテーマを共有したいと思っている。

月1、2回しか顔を合わせないワイズだが、その分、サービス精神・フェロウシップ・青少年やYMCAへの関心を共有する。だから東西交流会や区大会でもすぐ意気投合出来たのだと思う。まさに「価値観の共有」を感じた一年だった。歳の差があろうが対等に議論し、感動し、笑いあえる。そんな仲間の中からさらに可能性を掘り起こしていきたい。❖



文字の多い旧表紙



写真の多い新表紙

## 今期ユース活動報告

衣笠輝夫



ワイズメンズクラブ 2021-2022 年度は東日本区書記として、ワイズメンズクラブ東日本区の運営に関わり今期 2022-2023 年度は実質的活動である東日本区ユース事業に関わった。インターナショナルユースコンボケーション (IYC) でタイ・チェンマイにユース 5 名の送り出し、山中胡でのユースボランティア・リーダーズフォーラム (YVLF) でリーダー 28 名を集めての開催、ワイズ SDGs ユースアクションに連動したオープンフォーラム Y2022 (OFY) の開催そして、6 月の期末になってアジア太平洋地域ユースコンボケーション (AYC) にユースを送り出す推薦・調整作業に関わった。AYC2023 は東日本区から 13 名のユースをネパールのカトマンズに派遣する画期的なこととなった。これまで連絡の取れなかった立教学 T から 2 名、東京 YMCA リーダー 2 名、中大学 Y から 5 名、山梨 YMCA ユーススタッフ 1 名、とちぎ YMCA ユーススタッフ 1 名、そして YMCA やワイズに関心のある一般学生 2 名の計 13 名が、さまざまなクラブの推薦、山田次期理事推薦を受けて参加する。❖



### 「私たちの共通課題」(2)

浅羽俊一郎

5 月のブリテンに続いてグテーレス国連事務総長の「私たちの共通課題」から未来世代への責任を訴えた箇所(要約)を紹介したい。

第 2 次世界大戦が終息した 1945 年、国連は将来世代に二度と同じ辛酸を舐めさせないと誓った。同じ誓いを今日に当てはめると、地球規模の 3 脅威(地球温暖化・生物多様性の喪失・地球規模汚染)を含む必要がある。これらの対策は若者世代抜きには出来ない。それには現役世代が将来世代のライフ・スタイルが自分たちと大きく異なるだろうことに気づく必要がある。だがこの世代は目先のことに囚われており、その政策の結果を思うこともないのだ。

現時点で 2 億 6 千万人の 15~24 歳の若者が勉学、就労、技能訓練に与れないでいる。その 6 割が若い女性だがジェンダー差別が原因だ。コロナ禍の影響も大きい。若者は自分たちを政策決定に加えることが将来への投資になると訴える。若者の声が国政に届く機会を提供する国もあるが、国によっては若者は「未熟」「裨益者」「脅威」だとして批判の対象となる。

彼らの意見が国政に届くために投票年齢や立候補年齢を下げることを検討すべきだ。事務総長として今後「国別 若者の政治参加 指数」調査を考えた



© UN Photo/Mark Garten

い。また「ギガ・イニシアチブ (Giga Initiative)」は 2030 年までに世界中の学校がインターネット環境に繋げることが目標だ。他方若者には地元の若者ネットワークや若者が運営する団体を強化することを期待したい。

今世紀末までにこれから 10 億人生まれると予想される。彼らの生活は今の若者世代にどれだけ投資するかが影響する。ここで想起すべきが「世代間公正の原則」だ。各国の政策決定世代が、それぞれの文化や宗教的伝統を踏まえて、未来世代を想像すること、何よりも未来を出来るだけ正確に把握する力量が求められる。為政者は未来世代への責任を法制化していく必要がある。❖ (写真は国連文書から転載)

## YMCA の小窓から

\* 浦和 YMCA の活動を支えよう!

今年度より、所沢センター横にある「子育て子育てセンター」にて、浦和、川越のクローバークラブの親子を対象に月に 1 回“おやこの会”というプログラムを行っております。保護者の方は、それぞれお持ちのお悩みなどをぎゅっばらんにお話する場として利用していただき、その間に子どもたちは体操やプールのプログラムを行っています。先月の活動では、所沢センターのプールを借りて水遊びをし、その後は母の日にちなんだフラワーアレンジメントを行いました。「所沢センターにはキャンプのときに来たことがあるけど、プールに入るのは初めて!」とプログラムをととても楽しみにしているメンバーもいました。「絶対に水をかけないで!」と水に抵抗のあるメンバーもいましたが、リーダーが近くでサポートし、遊んでいるうちにすっかり水慣れをして、楽しんでいる様子がみられました。

プールをあがった後には、「次も絶対行く!」という声もありました。

保護者のみなさんも、他のご家庭の話を聞いてホッとしたり、参考になったり、と有意義な時間を過ごしていただいた様子でした。(水上真帆)





## ◆ 諸報告

### 6月「夜談会」



今月12日の夜談会（@青蓮）は常連に加えて東京江東YMCAの元リーダー3氏と川越クラブ現会長の山本剛史郎氏のはるばるお越しくくださった。浅羽が江東YMCAの新米職員だった頃、元リーダー3氏と出会った。どちらもYMCAのこともキャンプのことも分からずに一緒に体験と議論の中で学び、友情を育んだ。その後も交流を続けており、今回「夜談会」に参加してくれた。そして以前はワイズに距離を感じていたが、この会では親しく話せたと言ってもらえた。網中氏ははがメンとともに「歌声でらす」を手伝ってくれている。

話し合いは取り留めもなく大いに盛り上がり、中には参加者が再会の喜びを噛みしめている（写真）場面もあった。不覚にもグループ写真は見当たらず。ゲスト・ビジター：網中建志、山口弓子、吉田隆一、山本剛史郎、大輪匡史（敬称略）

（メンバー）上松、衣笠、浅羽（浅羽 記）

## ☺ 仲間からのお便り ☺

◆ 堀和光二郎メン 今月の俳句（俳号 愚道）

### ① 自慢げに咲いたあじさいよその家

あちこちに咲き誇るアジサイ、でもわがアパートにはありません。観るのはただ、ゆっくり鑑賞させていただきます。

### ② 六月の運動会のぎこちなさ

昔から運動会は秋と決まっていたのに、最近では6月にやる学校が増えたとか。まだ1年生の行列はぎこちないです。

### ③ プール帰り耳に入った水ぽたり

子供の頃プールに行くとけんけんをして耳に入った水を抜いたものです。久しぶりにプールに行くと耳の水をぬきました。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会 (6/12)	8	3	5

編集後記：ブリテンの編集に携わって2年。メンバーがある程度自由に書かせてくれた。効率的な表現・編集・広報など勉強になる。毎号ユーモラスな堀和メンの俳句、上松メンのエッセーと校正/助言、水無瀬メンの聖句、衣笠メンの写真、伊藤メンの書籍紹介などこれからも期待しています。

## Men's FOTO Gallery

\* 今年度の思い出アルバムから（浅羽メン提供）

